

県民参加 NPO等協働 通信

県民参加・NPO協働フォーラムで発表しました取組み事例の中から、山口川の取組みをご紹介します。

山口川をきれいにする市民ネットワーク ～子供たちが遊べるきれいな川をめざして～

只今紹介されました、「山口川をきれいにする市民ネットワーク」の事務局 撰待と申します。

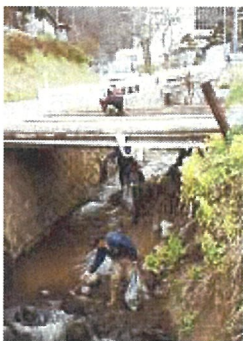
どうぞ、よろしくお願いします。

最初に、このような発表の機会を設けて頂きました岩手県県土整備部および関係者のみなさんに感謝いたします。

山口川の位置は右上図のとおりです。山口川の流域は、宮古市の5分の1で、そこに4,400世帯、約11,000人が住んでいます。

私が地元（宮古）に戻って来たのは昭和58年のことでした。その頃の山口川はその3年位前には岩手県で一番汚い川とレッテルを貼られていました。いわゆるドブ川でした。それを自分なりに考え、どうにかならない物かと思い、市役所に何回も足を運びました。市役所では「あなた1人で何が出来るんですか」と言われ、自分なりにくやしい思いをしました。その後も市役所に通い、水質調査の結果を教えてもらいましたが、水質の悪さに愕然としました。

当時、山口青年の会をつくり、その中で川の水質結果を発表し、毎年春には清掃活動を行なうようになりました。タイヤや自転車などの多くのゴミでした。

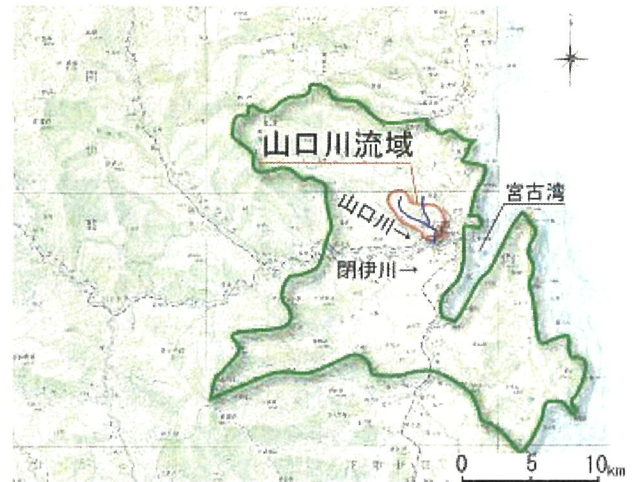


↑タイヤなどのゴミが多く捨てられていた
←河川清掃の様子 (H5年当時)

その後、私が住む山口団地の父の会にて（母さんも入れて活動）、清掃活動や川をきれいにする呼びかけの看板設置等を行なったほか、川へ流入する排水管の下へ、実験的に炭による浄化装置を設置したりしました。



山口川の流域位置図



また、一番上流に住む宮園団地の青年会に話を持っていき、同じように清掃活動をしています。宮園子供会でも看板などを作り活動しています。その子供会では、宮園青年会の指導のもと毎年ヤマメの放流を行っております。宮園団地のすぐ下流の知的障害者援護施設「第一わかたけ学園」にも話を持っていき、春の清掃活動に加わってもらいながら、現在までやってきました。そのほか、中流にある山口小学校にも声をかけ、平成15年から清掃活動を行っております。

次に水質について述べたいと思います。

BODは、生物化学的酸素要求量のことで、図をご覧ください。平成元年から平成5年で100から22へ変化しています。その後も、水質は良くなり、平成13年には1.8を達成しました。これは、A類型になり、ヤマメが住む環境にまで戻ってきています。一般にヤマメ、イワナなどが2、サケ、アユなど3、コイ、フナなど5といわれています。

水質(BOD)～旧山口川の水質～



BODとは？

川や湖などの水のよごれの程度をはかる尺度にはいろいろありますが、その水質基準として定められている項目の代表的なものとして、BODがあります。

水中のよごれ(有機物)は、微生物の作用で分解されますが、この過程で使われる酸素の量を

BOD (Biochemical Oxygen Demand
:生物化学的酸素要求量)

といい、単位は mg/l(百万分の一)であらわれます。

有機物の量が多ければ、水中の酸素は減少し、ひどいときにはメタンガスや悪臭が発生し、河川生物は生きていけなくなります。

次に、昨年1月に山口川の未来を守ろうと、岩手県宮古地方振興局土木部の音頭で、宮古短期大学部教授 芝田耕太郎教授を座長をはじめとする24人で「未来の山口川創る会」が設立されました。メンバーは、市役所・漁協・短大生・小学生・自治会の方々です。

その後、会合を繰り返して、これからの山口川への基本方針が決まりました。

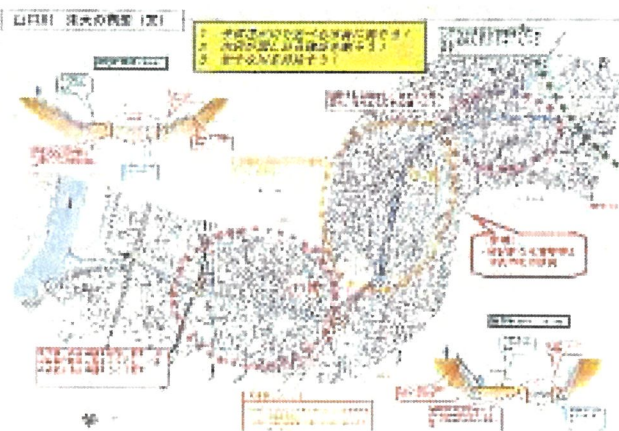
- ①子供達が川で遊ぶ水質に戻そう！
- ②市民が親しめる環境を作ろう！
- ③安全な川を目指そう！

「未来の山口川創る会」の懇談会が進む中で、地元委員の盛り上がりもあり、地元が中心となって構想を現実へと進めることを目標とした「市民ネットワーク」を作っていこうという決議になりました。

その後、平成16年8月12日に「山口川をきれいにする市民ネットワーク」が設立しました。



宮古市の広報への掲載と並行して、PRチラシを配って市民ネットワークのボランティアを募集しました。山口川の河川流域の自治会会長の所に足を運び、22の自治会長宅を訪問し、主旨を説明して歩きました。中には、自治会の役員会にも呼ばれ説明したこともあり、また、ある自治会では年寄だけの自治会（町内）で何かボランティアが出来ますかと聞かれました。私が住む山口団地では、自ら自治会に声をかけ、班長に協力してもらい次のような文書で各家々640世帯に配っていただきました。



また、市民ネットワークの一員である、宮古水産高校の佐々木先生のご指導により、山口川に初のイトヨが上がった。その後、イトヨは9月8日に山口小学校に贈呈され、現在も元気に泳いでいます。一匹だけ、正月の学校に誰もいない間に、死んでしまいました。残念です。

また、イトヨの巣づくりにヒントをもらい、その後は枯草や水草で人工のバイオマットを作り、3ヶ所で実験しました。（バイオマット……自然浄化物が川の中にあることを発見）

リンやアンモニウムを減少させる作用が非常に高いことがわかりました。これは生き物が産卵したり、身を隠し足りするのに重要な物質です。河川敷の草で、人工バイオマットを作っていけば、経費が安く済むと思います。



現在は、山口川上流の蜂ヶ沢川合流部付近にて、クレソンによる水質浄化があるか調べている所です。今後、ネックとなるのは川底のコンクリートと水量の問題です。

蜂ヶ沢川には魚がいません。山口川の合流点に、高さ1mほどのコンクリートの帯工があり魚が遡上来ません。また、中流部、山口小学校の前に高さ2mほどの転倒堰があり、そこでも遡上は無理です。

近年、鮭の遡上も確認されており、宮古市民の注目が集って来ているところです。

今年度は、上流から下流まで、各自治体・団体等で水質の調査を行なう予定です。源流の宮園団地奥の黒森山でも、川の中に湧き水の湧いてあるところがあるので、それも今後注目し、利用方法を検討していきたいと考えています。

住民一丸となって、1日も早いきれいな山口川になるよう努力していきたいです。

昔の山口川にいたヤツメウナギの夢を見て終わりとしませす。本日はありがとうございました。

